

平成27年3月20日

区自治協議会提案事業 事業評価書

中央区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	超高齢・人口減少社会における地域コミュニティの役割の検討 【事業費予算 1250 千円】
事業目的・概要	すでに到来している超高齢社会及び人口減少社会について、現状と今後の推移を把握するとともに、そのような環境下において、人にやさしい暮らしのまちを実現するために地域コミュニティが担う役割と取り組みの方向性について検討し、自治協議会として区民に発信する。
事業の実施実績 (実施回数、参加者数など)	<p>(1) 調査・研究「超高齢社会及び人口減少社会の現状と今後の推移について」 高齢化率、人口の減少率などの基礎データを確認し、ワークショップを通して、現状の把握・課題となるキーワードの抽出を行った。</p> <p>(2) 検討「地域コミュニティが担う役割と取り組みの方向性について」 上記(1)の検討をふまえ、地域コミュニティが担う役割と取り組みの方向性を見出すため、実地調査として、中央区内自治会・町内会を対象にアンケート調査を行った。</p> <p>【調査概要】 「超高齢・人口減少社会における自治会・町内会の役割に関する調査」 調査対象：中央区内 自治会・町内会 513 団体 調査期間：平成26年11月28日(金)～12月12日(金) 回収数：367 回収率：71.5%</p> <p>(3) 発信 上記の調査結果の速報をまとめるとともに、「中央区助け合いのシンポジウム」において提案事業について報告を行った。</p>
事業の評価 地域課題の抽出方法や企画 立案の評価、事業の公益性・実効性・効率性の評価 など	<p>○ 超高齢・人口減少社会を迎え、さまざまな地域課題の解決には、行政や企業だけでは対応が困難になってきており、地域コミュニティの基本である自治会・町内会の役割が重要となってきている。このような中で、現状把握、事例抽出をするべく中央区の自治会町内会を対象にして行ったアンケートは、回収率が71%を超え、関心の高さがうかがえる結果となった。</p> <p>○ アンケートを回収してみて、こちらの意図するところと違った回答があり、設問の仕方の難しさを知った。もっと事前の検討やテーマの絞り込みが必要であった。</p> <p>○ アンケートの分析を通して、部会として次のようにまとめることができた。</p> <ul style="list-style-type: none">● 多くの自治会・町内会が問題を抱えながらも、色々な行事に取り組み、会員相互のコミュニケーション作りに努力されている。 日頃からのあいさつ運動や声かけなどといった「日常的な関係づくり」が基礎となり、その上で具体的な取り組み、活動に広がるものと思われる。 <p>しかしながら、いわゆる「ヒト・モノ・カネ」の不足により、自治会単独での活動が難しくなっている。また地域で抱える様々な課題に直面し、単一の自治会では解決できず、隣接する自治会と協力して行っているところもある。</p> <p>今後は、自治会・町内会として取り組むべき事と、コミュニティ協議会として取り組むべき事とのすみ分けなどの整理が急務である。</p> <p>自治会・町内会の役員の高齢化・後継者不足の問題についてであるが、今回の調査でも、役員の多くが60歳以上であり、高齢化が顕著である。また、役員の成り手がいないという回答が多く寄せられた。</p> <p>現在の社会情勢の中では、自治会・町内会の役員に若い世代を期待するのは、いささか困難であるように思う。まずは、現役を引退されたばかりの世代の協力を得る取り組みが必要である。また、役員は、次世代の人材にいつでも引き継げるように、日頃から地域とのコミュニケーションを図り、自治会・町内会の活動にご尽力いただきたいと思う。</p> <p>○ そのほか、提案事業ではないが、「老人憩いの家」の問題について、埋没していたものを部会として、調査検討することができ、意見を報告書として提出することができた。</p>

